

夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案）に関する意見を募集します！

川崎市は、夢見ヶ崎動物公園における再整備の基本的な考え方及び運営手法等を示した「夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案）」をとりまとめ、令和 8 年 1 月 30 日から令和 8 年 3 月 2 日まで、パブリックコメントにより、市民の皆様からの御意見を募集いたします。夢見ヶ崎動物公園は開園から 70 年以上が経過し、公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動への対応等が必要となっていることから、令和 6 年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」を決定しました。本計画案では、当該骨子に基づき、令和 8 年度から令和 17 年度までの概ね 10 年間を計画期間とし、動物舎や休憩施設、園路など公園全体を段階的に整備することとしており、市民等から広く意見を受け付けます。

1 意見募集期間

令和 8 年 1 月 30 日（金）から令和 8 年 3 月 2 日（月）まで

※郵送の場合は、令和 8 年 3 月 2 日（月）消印有効

※持参の場合は、令和 8 年 3 月 2 日（月）17 時 15 分まで

2 意見の提出方法

御意見は、意見提出フォーム（<https://logoform.jp/form/FUQz/1366241>）

郵送、FAX、持参のいずれかでお寄せください。

※意見書の書式は自由ですが、必ず「題名」、「氏名」及び「連絡先（電話番号、メールアドレスまたは住所）」を明記してください。

【提出先】〒210-8577 川崎市川崎区宮本町 1 番地

川崎市建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課（市役所本庁舎 17 階）

FAX 044-200-3973

3 計画案の閲覧方法

閲覧期間：令和 8 年 1 月 30 日（金）から令和 8 年 3 月 2 日（月）まで

川崎市ホームページ「市政情報」内の「広聴・パブリックコメント」から御覧いただけます。

（<https://www.city.kawasaki.jp/templates/pubcom/530/0000183320.html>）

また、以下の場所でも閲覧いただけます。

- （1）かわさき情報プラザ（川崎市役所本庁舎復元棟 2 階）
- （2）各区役所市政資料コーナー
- （3）建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課（川崎市役所本庁舎 17 階）
- （4）市民館・図書館
- （5）幸区役所道路公園センター
- （6）夢見ヶ崎動物公園パークセンター
- （7）日吉合同庁舎（1 階・3 階）

4 その他

- （1）意見書の氏名及び連絡先等は、意見内容を確認させていただく場合があるため、記載をお願いするものです。個人情報の保護に関する法律等に基づき、厳重に保護、管理します。
- （2）お寄せいただいた御意見に対して個別には回答をしません。市の考え方を内容ごとに整理・要約し、後日、市ホームページなどで公表します。
- （3）電話や来庁による口頭での御意見は受け付けていません。



▲意見提出フォーム



▲市ホームページ
資料閲覧はこちら



【問合せ先】

川崎市建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課 小藪

電話 044-200-1202



夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案）について ご意見をお聞かせください



意見募集期間：令和8年1月30日(金)から令和8年3月2日(月)まで

夢見ヶ崎動物公園は、標高35mの丘陵地(加瀬山)に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のような、市内で唯一の動物公園です。古墳など歴史資源を有し、お花見・散策・遠足・地域の行事など、四季を通じて幅広く利用されています。

しかし、開園から70年以上が経過し、施設の老朽化や周辺環境の変化、市民ニーズの多様化、さらには、気候変動への対応等が必要となっていることから、市民や利用者が「いのちを感じる」場を整え「都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場」としての動物公園を創造します。

このたび、再整備の基本的な考え方及び運営手法等を「夢見ヶ崎動物公園再整備計画(案)」としてとりまとめましたので、市民や企業、団体の皆様など、市に関わる方々から広く意見を募集します。

次について、ご意見をお聞かせください

- 1 整備の基本的な考え方について **Point** いのちを感じるプログラム
- 2 全体の空間構成と施設配置計画について **Point** 具体的な施設配置
- 3 地域への波及イメージについて **Point** 取組のアイデア
- 4 事業手法・運営手法について **Point** 日吉合同庁舎(庁舎駐車場・臨時駐車場)と連携した駐車場の有料化

※次項に夢見ヶ崎動物公園再整備計画(案)の概要を掲載しています。詳細は市ホームページまたは閲覧場所にてご覧ください。

～意見募集につきまして～

1 意見募集の期間

令和8年1月30日(金)から令和8年3月2日(月) ※郵送の場合は、令和8年3月2日(月)消印有効

2 意見の提出方法

①インターネット入力フォーム <https://logoform.jp/form/FUQz/1366241>

パソコンで回答される方は、上のURLよりアクセスください。

スマートフォンで回答される方は、右の二次元コードからアクセスできます。

※川崎市ホームページの「意見募集(パブリックコメント)」にアクセスし、ホームページ上の案内に従って御利用ください。

ご意見は
こちら



▲入力フォーム

②ファクシミリ FAX番号:044(200)3973

③郵送先、持参先 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地 川崎市役所本庁舎17階
川崎市建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課

※意見書の書式は自由ですが、必ず「題名」、「氏名」及び「連絡先(電話番号、メールアドレスまたは住所)」を明記してください。

3 資料の閲覧場所

かわさき情報プラザ(川崎市役所本庁舎復元棟2階)、各区役所市政資料コーナー、
建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課、市民館・図書館、幸区役所道路公園センター、
夢見ヶ崎動物公園パークセンター、日吉合同庁舎(1階・3階)、川崎市ホームページ

資料は
こちら



▲市ホームページ

《注意事項》 <https://www.city.kawasaki.jp/templates/pubcom/530/0000183320.html>

- ・御意見に対する個別回答はいたしません。市の考え方を整理した結果を後日市のホームページにて公表します。
- ・個人情報については、提出された御意見の内容を確認する場合に利用し、個人情報の保護に関する法律等に基づき厳重に保護、管理します。
- ・電話や口頭での御意見の提出はできません。
- ・持参時の提出時間は、開庁日の8時30分から17時15分まで(12時から13時を除く)

4 問い合わせ先

川崎市建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課 電話:044(200)1202 FAX:044(200)3973

背景と目的

夢見ヶ崎動物公園（以下、「夢見」という。）は、**昭和25（1950）年開園**、昭和47（1972）年に動物の飼育・展示を開始した、広場、動物、植物、古墳などの歴史資源を有する地区公園です。

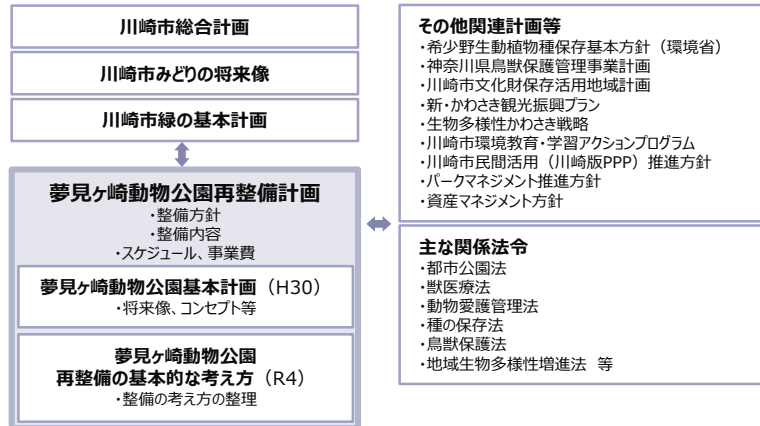
平成30（2018）年3月に「夢見ヶ崎動物公園基本計画」を定めました。その後の様々な社会変容を受け、**令和4（2022）年8月に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」**を定めて再整備の内容を見直し、**市民の意見聴取**、民間事業者との対話を重ね、**令和6（2024）年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」**を決定しました。

本計画は、これを踏襲しながら、**動物公園としての役割を改めて見直し**、施設の配置や、より具体的な整備内容、**中長期的な視点も踏まえた事業推進や管理運営の手法などについて示し**ています。

計画の位置付け

■上位関連計画

本計画は関連計画・法令との整合を図りながら策定します。



対象区域

本計画は、民有地などを除く、**夢見全体**を対象区域（**6.6ha**）とします。



計画期間

再整備計画の対象期間は、計画策定から**概ね10年**としますが、飼育動物の寿命などを鑑み柔軟に対応する必要があります。

現況・周辺状況

夢見の立地特性・概況

標高35mの丘陵地（加瀬山）に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のような姿で、**里山樹林・公園・動物園の3つのエリアで構成され、多様な特性を有しています**。市内で**唯一の動物公園**であるとともに、古墳など歴史資源を有し、お花見・散策・遠足・地域の行事など四季を通じて幅広く利用されています。



- ・標高35mの丘陵地
- ・まとまった緑
- ・市内唯一の動物公園
- ・鳥獣保護区に指定
- ・四季折々の自然
- ・富士見デッキからの眺望
- ・幸区市民健康の森に指定
- ・古墳、戦没者慰霊塔など歴史資源
- ・敷地内の社寺などと共存

里山樹林エリア

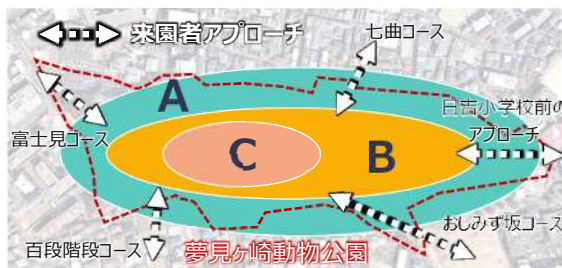
- A 加瀬山の豊かな樹林地 など

公園エリア

- B 加瀬山上部の平坦部 交流・レクリエーション・散歩 など

動物園エリア

- C 動物と出会う空間



概要

所在地：幸区南加瀬1-2-1
公園面積：6.6ha
公園種別：地区公園
開園日：昭和25(1950)年4月1日
動物展示開始：昭和47(1972)年11月22日
展示動物：51種279点(令和7年12月末時点)
入園料：無料

生物多様性かわさき戦略での位置付け

市街地・臨海部エリアにおける**回廊(コリドー)**における**拠点(コア)**であり、**生物多様性に関する情報の収集・発信拠点**としての役割も担っています。



連携協働の取組

サポーターやボランティアの方々、教育機関など多様な主体と連携した取組を行っており、活動のフィールドとして利用しています。



多様な主体との連携協働



教育機関などの連携



来園者数・収支状況

ピーク時(昭和63(1988)年)の来園者数は60万人を超えていましたが、**近年は10～20万人程度で推移**しています。**春(3～5月)及び秋(9～11月)に来園者数が増加する傾向**にあります。



園内に社寺などの民有地や5箇所の出入り口があり、**動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯**があります。過去5年間(令和2(2020)年度～令和6(2024)年度)の平均収入額は一時使用料などにより約16万4千円であり、また、支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約1億9千5百万円となっています。

夢見ヶ崎動物公園の課題

公園施設の**老朽化**に加え**周辺環境の変化**や**社会変容による市民ニーズの変化**、**気候変動への対応が必要**となっています。

●社会変容による市民ニーズ等の変化

新型コロナウイルス感染症による影響、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まり、アニマルウェルフェア※に対する意識の高まりなど

●施設の老朽化や不足による課題（部分的に先行整備を実施）

園内のバリアフリー化の不足／動物展示の魅力低下／アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の整備が不十分／駐輪場や駐車場の検討不足 など

●サービス面の課題

※アニマルウェルフェア：飼育および展示における個々の動物の身体的および心理的状態のことをいう。

「教育・環境教育」「レクリエーション」に関する公益的なサービスの不足／地域との協働のポテンシャルを活かしたイベントやプログラムの不足／加瀬山の様々な文化財の保存、活用と魅力発信事業の不足

●持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

コレクションプラン等の充実が必要／飼育のノウハウの継承が不十分/持続可能な管理運営のための財源確保の課題など



先行整備した
パークセンター

動物舎の老朽化

再整備の基本的な考え方

「いのちを感じる」夢見ヶ崎動物公園

平成30(2018)年 夢見ヶ崎動物公園基本計画
「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」

令和4(2022)年
夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方

令和5(2023)年～令和6(2024)年
夢見ヶ崎動物公園再整備骨子 **「いのちを守る」「いのちの体感」「いのちへの共感」**



夢見は目指すべき将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、**市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施**します。

- ・地球環境を大切に行動へつながる
- ・自然や環境を自分ごととして考えるきっかけ
- ・自分や他者を大切にする気持ちを育てる

加瀬山に存在する自然・歴史・動物の**多彩ないのち**を加瀬山全体として体感できる**施設整備と運営管理を実現**

再整備により **“都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場”**としての**動物公園**を創造します。

基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

加瀬山が持つ、ここにしかない「いのちを感じる」資源のエリアごとの整理

基本方針① 里山樹林エリア



- ・土地の記憶から**自然の営みを実感**
- ・樹林に暮らす**動物・鳥類・昆虫**
- ・生きものとの**共存を考える機会**
- ・身近な鳥獣保護区が住民の誇りにつながる

基本方針② 公園エリア



- ・世代の異なる**人々との関わり**
- ・健康づくりや**生きがい創出**
- ・伝統や文化など**人の営みを実感**
- ・歴史と平和の**大切さ**を伝える

基本方針③ 動物園エリア



- ・気軽に飼育員さん、園長さんに出会える環境
- ・動物のリハビリを知り、関われる
- ・都市の中で、様々な動物と**出会う**
- ・いつでも、何度でも、ゆっくり、じっくりいのちと向き合える



再整備の基本的な考え方

3つの基本方針に基づき、**五感を使った「いのちを感じる」プログラムを展開しやすい環境**をつくります。

基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と
人の営みを体感できる

里山樹林エリア

いのちを育む加瀬山の緑に親しむ



協働による樹林管理活動 発生材を活用した解説板



整備イメージ

- ・市民協働による樹林地管理の活動を支える施設や休憩場所を設置
- ・日常的な散歩・散策で自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものと出会える安全管理や地域の憩いの空間づくり
- ・活動で発生した自然資源を活用し、樹林に息づく生きものや取組を紹介できる解説板

基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、
協調・協働するすべを考えられる

公園エリア

いのちを大切にしている行動につながる



パークセンターの地域活用



子ども達が集う遊具

整備イメージ

- ・来園者や動物が公園内を安全に散歩できる園路、夏の暑熱環境に対応した休憩所などの施設整備
- ・顔となる遊具などを中心として自然と人が集まってくる柔軟な遊びの空間
- ・市民や企業からの意見や寄付を反映した施設整備
- ・広場やパークセンターは夢見の取組の発信や地域との関わりづくりなどに活用可能な空間とする

基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの
尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

動物園エリア

いのちの鼓動に心が動く



いのちを伝えるサインの工夫



いのちを守る取組を
身近に感じる施設

整備イメージ

- ・触るだけではない「ふれあい」を提供する、アニマルウェルフェアを遵守した動物展示、動物や生息環境の情報発信の充実
- ・バックヤードの整備や暑熱対策など、働く環境の充実
- ・ゆっくり観察ができ、居心地よく利便性のある空間づくり
- ・調理場やリハビリ施設の一部を見学できる、いのちを守る取組を身近に感じる施設を設置

■「いのちを感じる」プログラムの例

みる きく かぐ 味 ふれる

加瀬山の自然を 五感で感じる

自然の心地良さを五感で感じ、自然の大切さ、保全の重要性を学ぶ



樹林ボランティア(夢見)

加瀬山のいのちの 歩みとは？

今いる生きもの、昔いた生きものなどを知り、歴史と自然にふれる



昆虫教室(広島緑化センター)

動物の得意！ を披露 見て・聴いて驚き、 感動する

- ・人と関りが深いロバが人と一緒に歩く様子を観察
- ・鳥の羽や羽ばたきを観察
- ・動物を観察し、動きや習性に驚き、学ぶ

みる きく



ロバの散歩(京都市動物園)

みる きく



バードショー
(松江フォーゲルパーク)

食べることは 生きること！

- ・エサの準備のお手伝い
- ・食べ物やうんちの違いからいのちを感じる

みる かぐ 味



エサづくり体験(市川市動植物園)

いのちを守る 最前線を見学

- ・野生保護鳥獣の観察
- ・職場見学
- ・自分にできることを考える

みる



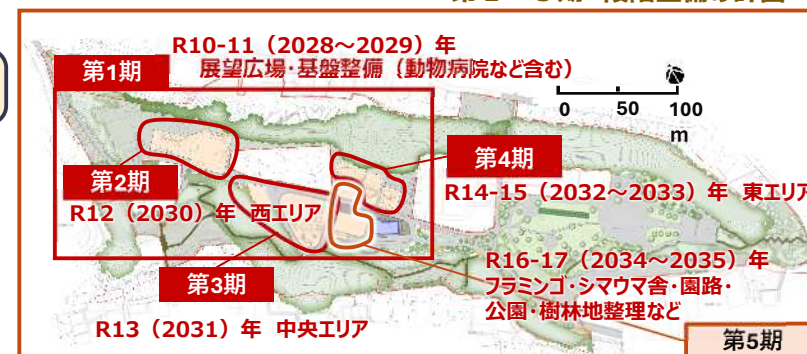
保護鳥獣の観察
(猛禽類医学研究所)



全体の空間構成と施設配置計画

現状の空間構成を活かすことで、樹林など環境への負担や造成など整備の負担を軽減します。

■ 第1～5期 段階整備の計画



里山樹林 エリア

緑と人が出会う

樹林や地域の生きものを観察・実感できる

【再整備を検討する主な施設】

- ① 樹林管理の拠点
- ② 階段・散策路
- ③ 児童公園
- ④ 駐車場



里山体験教室のイメージ

公園 エリア

人と人が出会う

家族と、友人と、地域の人と交流する

【再整備を検討する主な施設】

- ⑤ 「う回路」入口・パークセンター南側
- ⑥ 駐車場からの入口
- ⑦ 展望広場
- ⑧ エントランスのロータリー
- ⑨ 慰霊塔付近
- ⑩ 芝生広場
- ⑪ 慰霊塔前広場



遊具配置のイメージ



植栽

- ・既存の緑陰を活かしながら剪定を実施
- ・施設や公園利用の支障となる樹木を適切な位置に更新
- ・樹林管理活動で出た発生材の有効活用の検討

動線

- ・通過、散策と“たまり場”のバランスに配慮
- ・安全に楽しみながら歩ける舗装の整備
- ・災害時などにおける緊急車両、避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

公園全体

- ・園内に散在する歴史的資源や加瀬山の自然の保全
- ・各所に動物・昆虫などのイラスト、樹林管理の発生材を活用した作品などを設置



発生材アート作品
(吉野ヶ里遺跡)

⑤ 憩いの拠点

- ・富士山、街の眺望
- ・シンボリックなデザインの上イレやゲート、休みたくなる休憩施設



富士見デッキの眺望
(夢見)

動物園 エリア

生きものと人が出会う

動物園の動物たちと出会い・学び・楽しみ・驚く

【再整備を検討する主な施設】

- ⑫ 広場、動物展示、動物病院、調理場、隔離室など



動物病院イメージ



動物舎イメージ

⑬ 交流の 拠点

ワクワク感を演出するサイン、公園エリアから動物園エリアへの誘導サインや案内板



動物モチーフのサイン
(のんほいぱーく)



エントランスの演出
(盛岡市動物公園)

⑭ にぎわいの 拠点

遊びやイベントなどの利便性向上のための園路や休憩施設



キッチンカーの出店
(夢見)



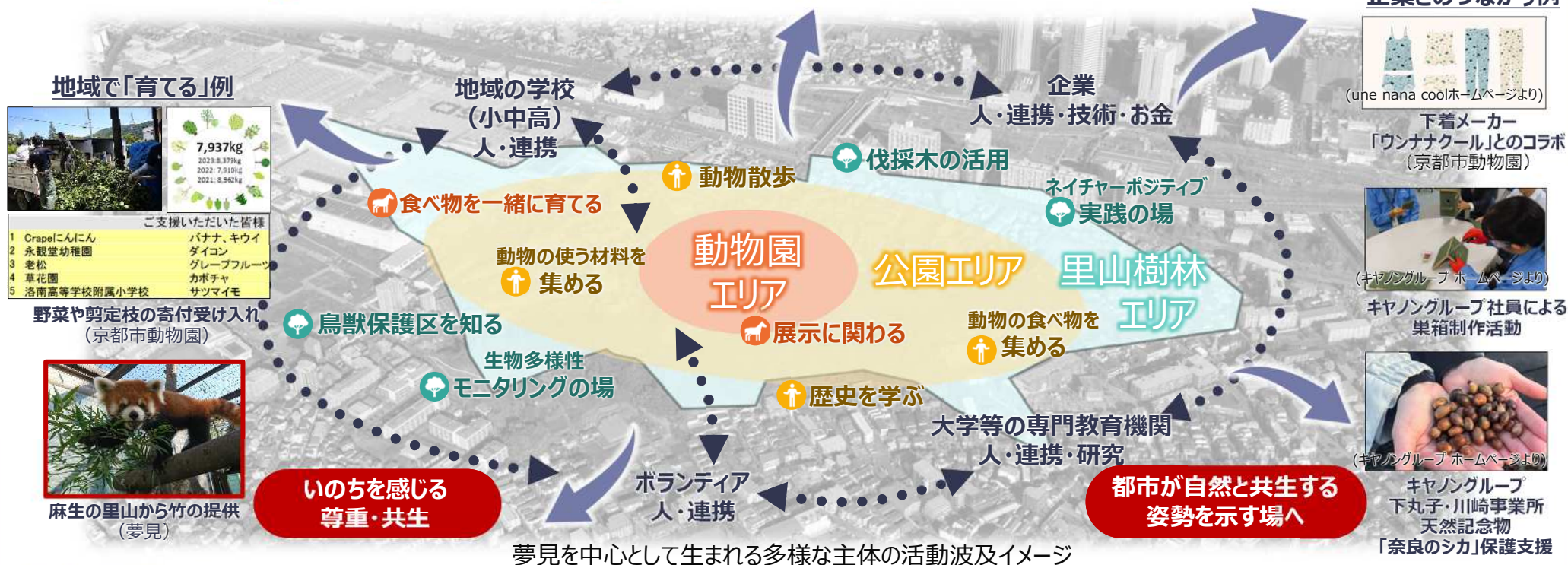
芝生広場
(夢見)



地域への波及イメージ

再整備で強化する「いのちを感じる」しかけが、夢見から地域を巡り、**多様な主体とそれぞれの資源・得意分野で育ち、良い効果が波及していくことを目指します**。再整備にあたっては、協賛や技術提供、実験的な取組を通じて、地域とのつながりを深め、広げながら**市民・企業・大学と共に新しい夢見を育てて**いきます。また、**環境や社会貢献のメッセージを発信する場**として機能し、**都市が自然と共生する姿勢を示す場**として**地域や来園者に新しい価値を提供**します。

里山との関わり 来園者との関わり・来園者の体験 飼育との関わり



地域とのつながり例

※赤枠：既に夢見で取組が始まっています。



慶應義塾大学大学院ワークショップ (夢見)



近隣企業による地域貢献活動 (夢見)



東京農業大学による保護鳥獣研究 (夢見)



川崎総合科学高校による展示の協力 (夢見)



加瀬山の会の門松作成 (夢見)

動物公園内の循環の例



園内の樹木の葉で巣作り (夢見)



果樹の栽培 (渋川動物公園)



来園者からのどんぐりの寄付 (大宮公園小動物園)



※物価水準の変動などにより変更が生じる場合があります。